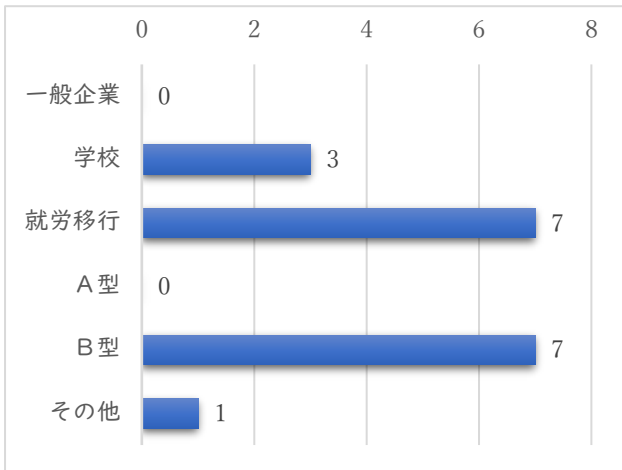


## ●就労アセスメントに関するアンケート結果（回答学校数：9校）

Q1 これまでに、学校の実習を利用して就労移行支援事業所の就労アセスメントを受けた生徒はいるか？

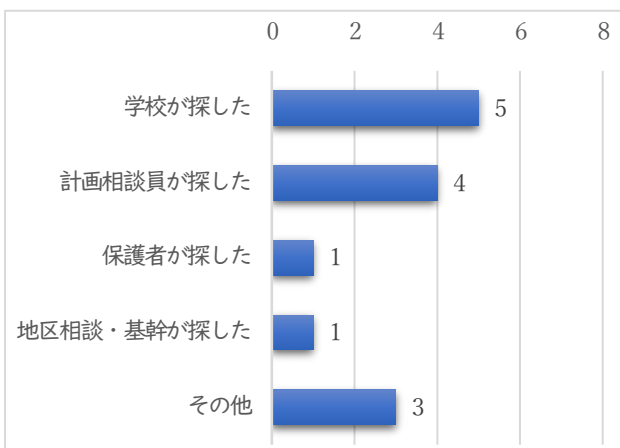
いる	8
いない	1

Q2 就労アセスメントの実施場所【複数回答可】



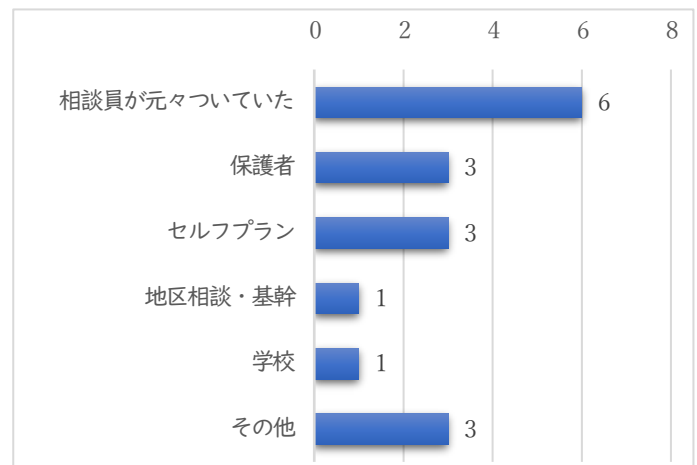
Q3 就労移行支援事業所はどうやって探したか？

【複数回答可】



Q4 計画相談支援事業所は、どうやって探したか？

【複数回答可】



Q5 就労移行支援事業所や計画相談支援事業所を探す上で、困難に感じたことはあるか？

ない	4
ある	4

【意見】

- ・就労移行支援事業所の数が少なく、他校との絡みもあり、なかなか見つからないことがあった。
- ・実習期間中に、実習先事業所において、就労移行支援事業所に評価を依頼したいが、他事業所での評価を嫌う就労移行支援事業所があり、アセスメントの実施に困難が生じた。
- ・生徒に合った相談支援員を探さなければならず、難しい時があった。
- ・保護者が主導で動いてもらえるよう、相談支援専門員をつけてもらうために市役所の窓口を案内している。そういった情報を市役所からも保護者に分かるように周知してもらえると有難い。学校としても流

れを知りたい。

- ・関係機関との支援会議を繰り返し行うことで、解決できることが多かった。

#### Q6 就労移行支援事業所や計画相談支援事業所を探す上での課題は？

##### 【意見】

- ・実習する事業所に就労移行支援のサービスがあればスムーズに行くことが多いが、ない場合は事業所と学校でどのように話を進めていくとよいか悩むことが多い。
- ・就労移行支援事業所が少なく、なかなか良いタイミングでアセスメントを受けることができない。
- ・就労継続支援 B 型事業所では新規学卒者を受け入れるにあたって就労アセスメントが必須であるため、受入前の実習ではアセスメントを同時に行えるよう、就労移行支援事業所の斡旋に便宜を図って欲しい。
- ・福井市以外では、就労移行支援事業所でアセスメントのための実習を行わなければならないことが多く、初めてのところが苦手な生徒には非常に抵抗感があった。
- ・地区相談の仕組みができてからは、地区相談に相談し、連携して特定相談支援を探すようにしている。
- ・サービスを利用しないと相談支援専門員についてもらえない地区と、相談窓口としてサービス利用しなくてもついてもらえる地区とがある。地区ごと(福井、丹南、坂井)に対応が異なるので、学校としては、周知しづらい。難しいと思うが、福井県下(嶺北)で統一できると有難い。

#### Q7 就労アセスメントにあたって、事前に就労移行支援事業所から欲しい情報や、して欲しいことは？

ない	6
ある	2

##### 【意見】

- ・実習先でのアセスメントは可能かどうか、アセスメントをしてくれる事業所一覧があるとありがたい。
- ・障がい種を考慮した上で、就労として卒業後の受け入れの可能性がどうなのかについて知りたい。
- ・その生徒に合わせて、何が必要かは異なる。支援会議にて、対象生徒について、よく話し合っていくことが必要。

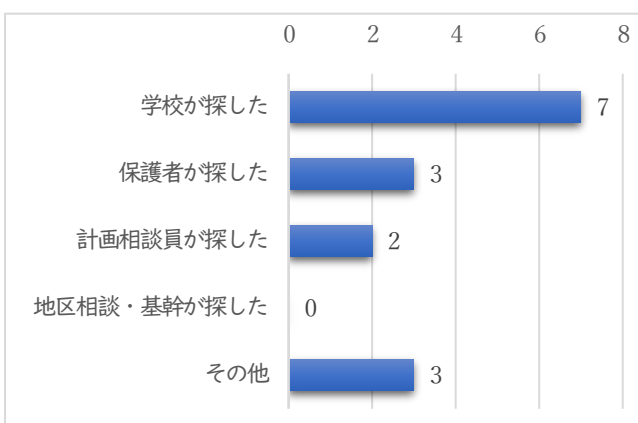
#### Q8 就労アセスメント中に、課題に感じたこと・上手くいかなかったことは？

ない	7
ある	1

##### 【意見】

- ・保護者への就労アセスメントについての説明が不十分で、トラブルになったことがあった。

#### Q9 卒業後に利用予定の B 型事業所はどうやって探したか？【複数回答可】



Q10 B型事業所と就労アセスメントの内容の情報共有は上手く出来ているか？

出来ている	7
出来ていない	1

【意見】

- ・関係機関との支援会議を繰り返し行ったことで、情報共有がその場でできていた。
- ・就労アセスメントの結果を共有できるといいと思っているが、どこまで伝えるとよいか、本人や保護者の了解が必要である。

Q11 いつの時点で就労アセスメントを行うのが望ましいか？

高等部2年生の秋	3
高等部2年生の冬	0
高等部3年生の春	4
高等部3年生の夏	0
高等部3年生の秋	4
高等部3年生の冬	0
高等部卒業後	0
その他	1

【意見】

○高等部2年生の秋

- ・進路先について悩んでいるケースには、アセスメントの内容が参考になって良い。アセスメント自体が日にち的に余裕がもてるし、季節的にも体調が整い、よい時期であると考ええる。
- ・一般就労が可能かどうかを、客観的に本人や保護者が知ることができ、高3年の進路指導に生かせる。
- ・生徒によっては高等部2年生段階でうけることがプラスに働く場合もあるので、生徒のニーズに応じて実施を検討していけるといい。

○高等部3年生の春

- ・この時期がリミットであると考ええる。ここが最終のタイミングである。
- ・本来はこの時期にアセスメントを行えると、後の計画が進みやすい。しかし、アセスメントよりも進路先を探すことに主眼が置かれる。
- ・2年生で色々なチャレンジをし、その結果、方向性が見えてくる頃なので、その時期に力試しをする、B型就労の生徒にとっても強み、弱みを把握する、もし進路変更を考えるとする場合でも夏休みに再検討できるのでこの時期がやりやすい。
- ・高3春に行くことで、夏（8月）の実習先を決めていくことができる。

○高等部3年生の秋

- ・実習期間中にアセスメントを行うことで、利用に向けた情報共有等が合理的に行える。
- ・なかなか進路を決められず、この時期になってしまうことが多い。
- ・学校の現場実習中に実施してもらえると良い。
- ・最終的にB型を利用することになった場合、行うため。

## Q12 その他自由意見

### 【意見】

- ・ アセスメントについて相談にのる、移行支援事業所を紹介する基幹のような組織があるとよい。
- ・ 計画相談支援事業所の照会を行政当局や基幹相談支援事業所、地区担当相談支援事業所が積極的に行って欲しい。
- ・ アセスメントをする場所が、生徒が実習する場所であるとありがたい。(実際の就労とは異なる場所でのアセスメントは生徒にとって負担)
- ・ 地域によって、アセスメントの調整についてばらつきがある。市役所、移行支援事業所、学校の役割分担が明確になるとよいと感じる。(坂井地区はマニュアル化されていて分かりやすい)
- ・ 就労移行支援事業所を増やしてほしい。
- ・ 学校が就労アセスメントを企画、準備するべきであるという考えが、一部の福祉事業所に見られる。しかし、就労にあたっての評価は、利用者を受け入れる側である福祉事業所が企画、準備すべきであるように感じる。もし福祉事業所にその手段が乏しいのであれば、行政当局が支援をすべきである。
- ・ アセスメント前の会議や後の会議など、生徒の人数が多いと、学校としては非常にタイトなスケジュールになってしまう。簡略化できないか？
- ・ 直接B型に進む生徒は就労アセスメントを実施しなければならない。生徒によっては、これが足かせになっている場合がある。進路を迷っていたり、現時点での力を知りたいというかたが受けるのはいいが、もうほぼ進路の方向性をかためているのに、それをとるためにわざわざ就労移行に実習に行かせる学校もあると聞いた。また、そのアセスの結果で涙を流す生徒もいると聞いた。本校は生徒によって出張型でアセスをお願いしたり、生徒に合わせて結果もうまく伝えてくださっているのだから、生徒のプラスになっている場合が多いが、アセスメントの意味が分かりづらかったり、手続き等に負担を感じる方もいる。「直接B型に進む場合は絶対に就労アセスメントを実施しなければならない。」というルールがもっと柔軟にできないかと思う。
- ・ 現在の状態は、現場実習と兼ねて就労アセスメントを実施しているため、現場実習先が「B型事業」「移行支援事業」のサービスを展開している場合は、実習の依頼とともに、就労アセスメントの相談をして、受け入れてもらい実施していた。もし、実習先がB型事業のサービスのみの場合は、相談支援専門員に相談して、動いていた。

就労支援事業所によって、就労アセスメントの実施件数が異なることを就労支援部会で知り、そのバランスを取ることも大切だと思う。でも一方で、学校としては、生徒が就労の可能性の高い場所での様子を見ていただきたい。また、評価をする前に、学校側の意図なども話を聞いてもらえると嬉しい。